

New 手元まで響く高感度のスーパーメタルトップを搭載 ショットバイパー M-225SMT

●強靱、粘強で汎用性の高いロッド「ショットバイパー」シリーズにスーパーメタルトップ(SMT)と穂先部にAGSガイドを搭載した「ショットバイパー M-225SMT」が加わった。穂先はしなやかに違和感なく食い込ませることができ、感度が向上したことで小さなアタリや底の状態も把握できる。このモデルは細身肉厚チューブ素材を採用、3DX、X45などダイワが誇る技術により、魚が掛かるとしなやかに粘り強く曲がり込み、強いパワーを備えたロッドに仕上がっている。対象魚は今回狙ったマハタのほか、ワラサ、マダイ、ヒラメ、アカムツ、遠征五目、シマアジ、イサキ、アジ、そして落とし込みや泳がせ釣りなど幅広くカバーする。



◀穂先はスーパーメタルトップ&AGSガイドを搭載
▼リールシートは軽さと高剛性、高強度を持つカーボン強化樹脂を採用したエアセンサーシート

全長(m)	継数(本)	仕舞(cm)	自重(g)	先径/元径(mm)	オモリ負荷(号)	適合ハリス(号)	カーボン有率(%)	メーカー希望本体価格(円)
2.25	1	180	350	1.3/17.9	20~150	~16	80	87,000

シーボーグ300MJL

●操作性、軽量化、デザインに磨きをかけたシーボーグのフラッグシップモデル。モーターにはハイパワーを生み出すマグマイト構造のマグマックスモーターを搭載。加えてATD、マグシールドボールベアリング、アルミJOGパワーレバー、メガツイン・プロ、ドット液晶などダイワの最新テクノロジーを搭載。握りやすい大型のアルミラウンドノブを標準装備。



SEABORG 300MJL

●SPEC:ギア比4.4、自重670g、標準糸巻容量PE 3号400m、4号300m、最大巻上力64(71)kg、メーカー希望小売価格11万3000円

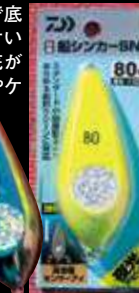
New 快適船シンカー SN New 快適大ヒラメハタ仕掛SS+S

★小田原型のオモリで底部にセンサーアイが付いていることにより着底が分かりやすい。夜光やケイムラ塗装が施されて、目玉ホログラムシール付きで対象魚にアピール

★ハリスはサクサ加工を施した太軸の伊勢尼で、接続部には滑らかな回転で糸ヨレを軽減するサクサ仕様のサルカンを採用。

■SPEC:全長1.5m、枝590cm、捨て糸50cm。ハリス8~12号、シングル/トリプル(ともに2本入り)入り数1組で480~530円

■SPEC:号数25~80号の6種、カラ6色、450~900円



▼誘いを入れ、仕掛けを着底させると突然竿先が突っ込んだ

▲魚が掛かると粘り強く曲がり込みバラシを防ぐ



▲1.2キロ級のマハタをキャッチ



▼JOGパワーレバーを片手で操作し電動スロー巻き上げて誘う



▲サクサ加工された太軸のイセアマハリスは刺さり力が抜群



▲当日は1.2~2.97キロのマハタを4尾で竿頭に

と笑顔で船を下りる福田さんだ。福田さんの勢いは止まらず、1.2キロ級のマハタを追釣したところで11時半の沖揚がり。「このサイズを4尾はできすぎです。新しい竿のおかげかな」と笑顔で船を下りる福田さんだ。

当日は「このパターンが正解らしく、続くアタリも誘いのあとの着底直後にきた。豪快に穂先が海面に突っ込んだところで竿を立ててハリ掛かりさせると、ショットバイパーが美しいカーブを描く。やがてボコンと海面に浮上したのは当日最大2.97キロのマハタ。「この竿は従来のショットバイパーと比べて、全長が15センチ長くなったにもかかわらず、チューブ素材の採用でシリーズ中一番軽く、より操作性が向上しています」

も福田さんにアタリ。合わせも決まり、1.5キロ級のマハタが取り込まれた。「電動スローで底上4メートルまで巻き上げて少し待ち、アタラなければ再着底させる誘いを繰り返します。今のは着底直後にアタリしました。シーボーグならJOGパワーレバーを使って片手で素早く確実な操作ができるので、チャンス逃しません」



SHOT VIPER M-225SMT + SEABORG 300MJL

★ショットバイパー M-225SMT が美しい弧を描き大型を予感させる

福田豊起 外房御宿沖でマハタ釣りを楽しむ

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.60

マハタ最前線

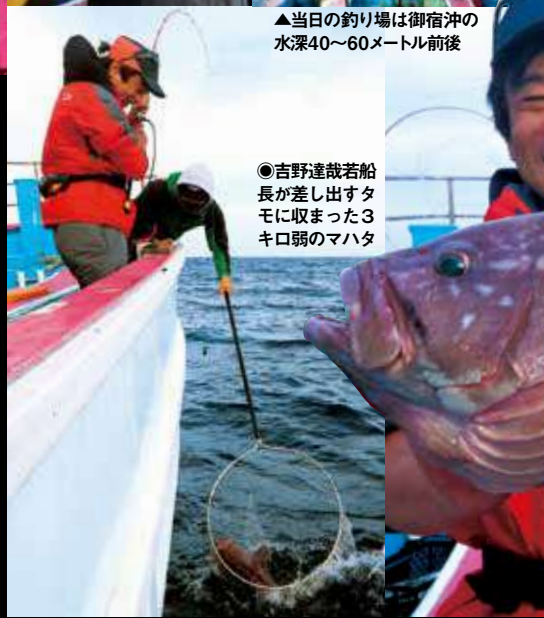
at 外房勝浦松部港出船

●釣ってよし、食べてよしのマハタが人気上昇中。外房方面をメインに専門で狙う船も増えてきた。今回は福田豊起さんがマハタを狙って外房勝浦松部港より出船した。

★当日最大の2.97キロのマハタ



▲当日の釣り場は御宿沖の水深40~60メートル前後



●吉野達哉若船長が差し出すタモに収まった3キロ弱のマハタ

福田豊起さんが釣行したのは周年マハタ五目狙いで出船する外房勝浦松部港の信昭丸。持参したロッドはスーパーメタルトップ(以下SMT)を搭載した「ショットバイパー M-225SMT」、使用する電動リールは「シーボーグ300MJL」。「SMT搭載で感度がよくなり、小さなアタリはもちろん、底の状態もリアルに把握できます」仕掛けは「快適大ヒラメハタ仕掛SS+S」と「快適船シンカーSN」80号の新製品コンビ。「根が荒い場所なのでハリス10号以上を使います。孫ハリスは、数が釣れるときはトリプル、良型が交じるときは太軸のシングルと使い分けるといいでしょう。とにかく根掛かりが多いので、仕掛けは5組以上用意しておく安心です」

10月下旬の取材日は6人の乗船者に乗せて6時に出船。30分ほど走って釣り場の御宿沖に着。着。「水深45メートルです。準備ができた方から始めてください」とのアナウンスでスタート。「この釣りはアタリからハリ掛かりさせるまでの駆け引きが面白い味です。合わせが早いとハリ掛かりしないし、かといって待ち過ぎると根に潜られてしまいます」と話している間に早く

